

CASBEE京都 戸建-新築(2011年版)
加算部

■使用評価マニュアル: CASBEE京都 戸建-新築(2011年版)
■評価ソフト: CASBEE京都 戸建-新築2011(v.1.1)

スコアシート		重点項目等	重点項目等に対する全国版評価基準の凡例	具体的な取組み一覧	評価点	重み係数	全体
Q ₁ すまいる環境品質							3.2
Q ₁ 1 室内環境を快適・健康・安心にする						0.45	2.6
1 暑さ・寒さ					2.3	0.50	2.3
1.1 基本性能					1.7	0.50	
1.1.1 断熱性能の確保				壁は自然素材を優先した土壁の為、壁以外の屋根・床で断熱性能を上げる。	1.0	0.65	
1.1.2 日射の調整機能		●自然	B(推奨内容)	平屋建かつ軒の出は90cmで計画し、南面には落葉樹である紅葉を植える。	3.0	0.35	
1.2 夏の暑さを防ぐ					3.0	0.25	
1.2.1 風を取り込み、熱気を逃がす		●自然	A'(全国版準用)	単純風向を考慮した上で、一方開口の場合は引戸で通風・換熱を促進する。	5.0	0.50	
1.2.2 適切な冷房計画					1.0	0.50	
1.3 冬の寒さを防ぐ					3.0	0.25	
1.3.1 適切な暖房計画				電気蓄熱暖房機を開口部下に設置し、温熱環境の均一化を図る。	3.0	1.00	
2 健康と安全・安心					3.0	0.30	3.0
2.1 化学汚染物質の対策				古来の伝統構法に則り、構造材は無垢木材・小舞竹下地土壁壁とする。	5.0	0.33	
2.2 適切な換気計画				居室空間に汚染物質が発生しない様、第三種換気を行う。	3.0	0.33	
2.3 犯罪に備える				—	1.0	0.33	
3 明るさ					3.0	0.10	3.0
3.1 昼光の利用		●自然	B(推奨内容)	昼光を利用できるサンルームを設け主寝室はダイニング・サンルームで置換え	3.0	1.00	
4 静かさ				窓枠重視のサンルームのみ木製建具を採用、該当以外はアルミサッシとする。	3.0	0.10	3.0
Q ₁ 2 長く使い続ける					—	0.30	2.8
1 長寿命に対する基本性能					3.0	0.50	3.0
1.1 躯体		●大切	A'(全国版準用)	構造材は基本的に現しとし、将来の保守を前提とした伝統構法で建築する。	3.0	0.30	
1.2 外装材		●大切	B(推奨内容)	外装材には全て自然素材を用い、自然塗料で保守を図る。	3.0	0.10	
1.3 屋根材、陸屋根		●大切	A(全国版準用)	主要な屋根材は全て和瓦とする。	5.0	0.10	
1.4 自然災害に耐える				金物を使わず仕口を接合し、靱性に優れた構造方法を採用する。	3.0	0.30	
1.5 火災に備える					2.0	0.20	
1.5.1 火災に耐える構造(開口部以外)				土壁の厚みは40mm以上を確保し30分間の遮熱性と非燃焼性を満たす。	1.0	0.65	
1.5.2 火災の早期感知				全ての台所及び寝室に火災警報器を設置する。	4.0	0.35	
2 維持管理					2.4	0.25	2.4
2.1 維持管理のしやすさ		●大切	A(全国版準用)	掃除口及び点検口を適宜設ける。	1.0	0.65	
2.2 維持管理の計画・体制		●大切	A'(全国版準用)	定期点検を行う。施主も工事に参加し理解を深め、三者が良好な関係を築く。	5.0	0.35	
3 機能性					3.0	0.25	3.0
3.1 広さと開取り				家事室、トイレなどを設置する。収納スペースはクローカー一括管理する。	4.0	0.50	
3.2 バリアフリー対応		●大切	A(全国版準用)	885mmモジュールを採用し廊下幅等を広く確保。適宜手すり等を設置。	2.0	0.50	
Q ₁ 3 まちなみ・生態系を豊かにする					—	0.25	4.6
1 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加算) D(独自基準)		5.0	0.30	5.0
2 生物環境の創出					3.7	0.30	3.7
2.1 敷地内の緑化		●とも	A(全国版準用)	既存樹木を保存すると同時に、建築に合わせた外構計画で緑化を行う。	3.0	0.65	
2.2 生物の生息環境の確保				多様な植栽により生物の生息環境を確保する。	5.0	0.35	
3 地域の安全・安心		●とも	D(独自基準)	周りに空地、境界は生垣等で見通し可。道路に面した公共性の高いサンルーム	5.0	0.20	5.0
4 地域の資源の活用と住文化の継承		●とも	D(独自基準)	伝統構法を採用し、府内産材をはじめとする自然素材を多用する。	5.0	0.20	5.0
LR ₁ すまいる環境負荷低減性					—	—	3.5
LR ₁ 1 エネルギーと水を大切に使う					—	0.35	2.7
1 建物の工夫で省エネ					2.0	0.35	2.0
1.1 建物の熱負荷抑制				壁は自然素材を優先した土壁の為、壁以外の屋根・床で断熱性能を上げる。	1.0	0.50	
1.2 自然エネルギー利用				北からの風に対し南北面に開口を設け、引戸を多用した開放的な開取りとする	3.0	0.50	
2 設備の性能で省エネ					2.7	0.40	2.7
2.1 暖冷房設備					1.8	0.27	
2.1.1 暖房設備		●自然	B(推奨内容)	電気蓄熱暖房機を設置する。	2.0	0.80	
2.1.2 冷房設備		●自然	B(推奨内容)	—	1.0	0.20	
2.2 給湯設備					4.5	0.37	
2.2.1 給湯機器				太陽熱温水器で給湯設備をまかなう。	5.0	0.80	
2.2.2 浴槽の断熱				断熱タイプユニットバスを断熱外皮の外側に設置する。	3.0	0.10	
2.2.3 節湯型機器および給湯配管				—	2.0	0.10	
2.3 照明・家電・厨房機器				多段階調光3つ星電気圧力鍋を採用する。	1.0	0.25	
2.4 換気設備				一般の換気システムを採用。	3.0	0.05	
2.5 エネルギー利用効率化設備					3.0	0.06	
2.5.1 家庭用コージェネレーションシステム				—	3.0	1.00	
2.5.2 太陽光発電システム				—	—	—	
3 水の節約					3.7	0.15	3.7
3.1 節水型設備				節水型便器2ヶ所を採用。	4.0	0.75	
3.2 雨水の利用		●自然	A'(全国版準用)	—	3.0	0.25	
4 維持管理と運用の工夫					4.0	0.10	4.0
4.1 住まい方の提示		●とも	A'(全国版準用)	リサイクル可能な建材を採用、自然エネルギーの活用、生態系を壊さない計画	5.0	0.50	
4.2 エネルギーの管理と制御					3.0	0.50	
LR ₁ 2 資源を大切に使いゴミを減らす					—	0.35	4.3
1 省資源、廃棄物削減に役立つ材料の採用					4.6	0.60	4.6
1.1 構造躯体					5.0	0.30	
1.1.1 木質系住宅		●大切	B(推奨内容) C(独自加算)	構造躯体は全て国内産材、自然に還る素材とし、既存建築躯体を一部に再利用	5.0	1.00	
1.1.2 鉄骨系住宅		●大切	A(全国版準用)	—	—	—	
1.1.3 コンクリート系住宅		●大切	A(全国版準用)	—	—	—	
1.2 地盤補強材・地業・基礎					3.0	0.20	
1.3 外装材		●大切 ●自然	B(推奨内容) C(独自加算)	外装には全て自然素材を使用し、廃棄物抑制に寄与している。	5.0	0.20	
1.4 内装材		●大切 ●自然	B(推奨内容) C(独自加算)	自然素材を多用し、壁は基本的には小舞竹下地の土壁壁とする。	5.0	0.20	
1.5 外構材		●大切 ●自然	B(推奨内容) D(独自基準)	外構(門・ゴミ置き場)の素材には府内産針葉樹を用いる。	5.0	0.10	
2 生産・施工段階における廃棄物削減					3.5	0.30	3.5
2.1 生産段階(構造躯体用部材)		●大切	B(推奨内容)	工場加工は行わず手刻みによって加工する。	—	—	
2.2 生産段階(構造躯体用以外の部材)		●大切	B(推奨内容)	室内建具には古建具を再利用する。	4.0	0.50	
2.3 施工段階				—	3.0	0.50	
3 リサイクルの促進					5.0	0.10	5.0
3.1 使用材料の情報提供		●大切	A(全国版準用)	施主の施工現場への参画によって、実体験に基づいた情報を提供する。	5.0	1.00	
LR ₁ 3 地球・地域・周辺環境に配慮する					—	0.30	3.5
1 地球温暖化への配慮					2.2	0.33	2.2
2 地域環境への配慮					4.5	0.33	4.5
2.1 地域インフラの負荷抑制				外構面積はほぼ植栽地とし、外構部にゴミ置き場を設置する。	4.0	0.50	
2.2 既存の自然環境の保全		○		従前の自然環境を保全する前提で建築計画を行った。	5.0	0.50	
3 周辺環境への配慮					4.0	0.33	4.0
3.1 騒音・振動・排気・排熱の低減		●とも	A(全国版準用)	全ての機器において、境界からの一定距離を保持よう配置する。	3.0	0.50	
3.2 周辺温熱環境の改善		●とも	A(全国版準用)	建築物周辺には空地を確保し、緑地を確保し、緑化を図る。	5.0	0.50	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素創出に係る項目
重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともを使う 「自然」:自然からつくる

■LR₁1 太陽光発電による補正後のランクとスコア

2 設備の性能で省エネ					2.7	0.40	2.7
2.1 暖冷房設備					1.8	0.27	
2.1.1 暖房設備					2.0	0.80	
2.1.2 冷房設備					1.0	0.20	
2.2 給湯設備					4.5	0.37	
2.2.1 給湯機器					5.0	0.80	
2.2.2 浴槽の断熱					3.0	0.10	
2.2.3 節湯型機器および給湯配管					2.0	0.10	
2.3 照明・家電・厨房機器					1.0	0.25	
2.4 換気設備					3.0	0.05	
2.5 エネルギー利用効率化設備					3.0	0.06	
2.5.1 家庭用コージェネレーションシステム					3.0	1.00	
2.5.2 太陽光発電システム					—	—	